



Colloquia Aquitana II – 2006



デュラス羊皮紙・彩色装飾保存博物館

• 住所 : Rue des Eyzins • F – 47120 Duras FRANCE • Tel. : (00 33) 05 53 20 75 55 •
• (<http://www.museeduparchemin.com/>) • (museeduparchemin@free.fr) •

デュラス市協賛

第2回 アキテーヌ・シンポジウム

Colloquia Aquitana II – 2006

▶ [8月3日(木)・4日(金)・5日(土)] ◀

ボエティウス

(ローマ, ca. 480 – †パヴィーア, ca. 524)

• 人物 • 哲学 • 科学 •
作品とその影響

Boethii De institutione arithmetica I, 2 :

• De substantia numeri •

始めに自然によって構築されたものは全て、数の体系の上に形成されている。
なぜならそれは創造者の精神において第一の模型であったからだ。



• Bamberg, Staatsbibliothek, Msc. Class. 5 • (olim : Class. 8 H. J. IV. 12) • IX^e s., ca. 844-851, Tours, f. 2v° •
• Boethii De institutione arithmetica libri duo •

(traduction japonaise : Aya Ono → ono_bun@nifty)



▶ 問い合わせ → museeduparchemin@free.fr ◀





📖 第2回アキテーヌ・シンポジウム – 2006年8月3日 – 5日 📖

(ボエティウス[Boethius, ca. 480 – ca. 524] : 人物・哲学・科学・作品とその影響)

このシンポジウム・講演会・セミナーという研究サイクルは、将来性のある若手研究者・研修生が、修士・博士や教授資格試験の取得以前にも研究の成果を発表・出版できるようにと、2005年にデュラス羊皮紙・彩色装飾保存博物館 (Musée Conservatoire du Parchemin et de l'Enluminure de Duras) に創設されました。研究者や教授・助教授・教師・学生、また知を愛してやまない愛好家たちの間でも、その関心領域が何であれ、高いレベルの研究手段として認知されています。その第一の使命は、多様で変化に富んだ、様々な教養をもつ広い範囲の聴衆に向けた文化の発信地になることです。

この研究サイクルでの研究発表は、すでに出版社(<http://www.manuscrit-universite.com/>)から発刊されることになっており、短期また長期の活動に対してはこれから適当な助成金を求めていく予定です。研究・教育・文化を養うこの新しい試みは、2006年には新たにデュラス市ヨーロッパ学際研究図書館 **Bibliothèque Interdisciplinaire de Recherche Européenne à Duras (la B. I. R. E.)** を創設するひきがねとなりました。この図書館は手稿や印刷された資料を始め、中世研究や有形・無形の文化遺産に関する優れた研究の成果をデータとして収集し、それらは我々の研究サイクルの研究対象となるでしょう。デュラスにおける **B.I.R.E.** の落成式は、2006年8月3日から5日に行われる第二回アキテーヌ・シンポジウムと同時期に行われます。

新しく構成された学術委員会には、若手からベテランまで 16名の研究員が、幅広い研究領域をカバーしています：彼らは哲学、科学哲学、神学、典礼学、歴史、公文書学、科学技術史、美術工芸史、建築、音楽、語学、言語学、文学、演劇、古文書学、写本研究、ギリシャ語、ラテン語、ヘブライ語、アラビア語、フランス語、オック語、原＝文献学、ラテン速記術、などの専門家です。ここにはもちろん、4科 (*ars arithmetica, ars musica, ars geometrica, ars astronomica*; cf. Boèce *De institutione arithmetica* I, 1, 6世紀) と3学 (*ars grammatica, ars dialectica, ars rhetorica*, 9世紀末、カロリング朝), すなわちギリシャ語では « αἱ ἐλεύθεραι τέχναι », ラテン語では « *artes liberales* » といわれるリベラル・アーツ (自由七科) も含まれています; cf. s. Augustin, 354-430, *De ordine* II, 7, 8, 12)。これらは古代の « ἐγκύκλιος παιδεία », すなわち紀元前1世紀頃からの、ピタゴラスやプラトンの知的伝統に従った教養課程です。

デュラス羊皮紙・彩色装飾保存博物館は、ものを書き留める媒体としては最も高貴なものであった羊皮紙の伝統的な製法を保護するという歴史的・教育的役割を果たしつつ、研究班と諸団体の協力を得て、今や新しい研究の次元をその活動のなかに付け加えようとしています。それは「アキテーヌ・シンポジウム」と題して、一般に向けて、シンポジウム・講演会・セミナーを提供していくことです。(IH: ih)

デュラス羊皮紙・彩色装飾保存博物館は以下の協会の協賛を得ています

- ヘレニズム・ビザンチン音楽推進協会 l'Association pour la Promotion de la Musique Hellénique et Byzantine •
(会長: Ghislaine Vandesteendam • F-31000 Toulouse)
- ヴォックス・ノヴァ (新声) 協会 l'Association Vox Nova •
(会長・創設者: Illo Humphrey • F-47120 Duras)
- 国際ボエティウス協会 International Boethius Society (IBS • USA) •
- ルネサンス高等研究センター Le Centre d'Études Supérieures de la Renaissance •
(CESR • Université François-Rabelais, France – 37000 Tours)

なお、デュラス羊皮紙・彩色装飾保存博物館は以下の団体とも学術交流を行っています

- 文献歴史研究院 Institut de Recherches et d'Histoire des Textes (IRHT) •
- (写本研究セクション Section Codicologie • CNRS • Paris et Orléans-la-Source)
- フランス国立図書館 Bibliothèque nationale de France : Site Richelieu (Paris) •

(traduction japonaise : Aya Ono → ono_bun@nifty)





デュラス羊皮紙・彩色装飾保存博物館



📖 • 第2回アキテーヌ・シンポジウム・8月3日-5日 • 📖

・ボエティウス：人物像・哲学・科学・作品とその影響・

§ [0] 風光穏やかなアキテーヌ地方デュラス市の中心に位置するデュラス羊皮紙・彩色装飾保存博物館は、毎年開かれることになった新しいサイクルの「アキテーヌ・シンポジウム」を2005年の8月5日-6日に初めて開催しました。第一回のテーマは、「中世研究：物質的遺産と精神的遺産」でした。この最初の試みは高いレベルのシンポジウムを作りあげ、アキテーヌ地方の自立的な研究の発展に大きな寄与を果たしました。
(<http://www.museeduparchemin.com/colloque.htm>).

§ [1] 第二回アキテーヌ・シンポジウムは2006年8月3・4・5日に予定されており、イタリアの哲学者ボエティウス(Severinus Boethius, ローマ, ca. 480-パヴィーア, ca. 524)にあてられます。ピタゴラス学派かつプラトン学派に属する彼は、西洋の科学的・哲学的伝統の枠組みから見てあらゆる点で古代と中世をつなぐ役割を果たした人でもあります。「第2回アキテーヌ・シンポジウム」のテーマは、「ボエティウス：人物・哲学・科学・作品とその影響」です。自明のように、このテーマのもとには学際的・統合的な研究が含まれます：数と比例の哲学(4科、すなわち：*ars arithmetica*・*ars musica*・*ars geometrica*・*ars astronomica*)、文法の学(3学：*ars grammatica*・*ars dialectica*・*ars rhetorica*)、倫理学(ギリシャ語で：«*Tà [τῆς ψυχῆς] ἀγαθὰ*・«*Θεῖα καὶ ἀνθρώπινα*»あるいは«*αἱ [τῆς ψυχῆς] ἠθικαὶ ἀρεταὶ*»・ラテン語では：«*summa bona*»または«*quattuor uirtutes animæ*»と言われるもの)、図像学、五感のはたらき(希：*τὸ αἰσθητήριον*, -ου・羅：*sensorium*)、感覚による知覚の学(希：*ἡ αἴσθησις*, -εως・羅：*perceptio*・*perceptio sensuum*)、認知過程の学(希：*ἡ γνώμη*, -ης・羅：*cognitio*)、原=文献学(テキストの特徴、解釈、注釈、句読法、古文書、写本学などを考慮に入れる研究)、諸言語、詩、文学、神学、人物伝、聖人伝、歴史など、これら全ては、ボエティウスが関心を示した研究範囲の広さを表しています。しかも多くの場合、時には短く触れただけではあっても、彼はこれらの研究への深い概念理解を示してみせたのです。

§ [2] この25年間の間に、ボエティウスに関する大きなシンポジウムが3回開かれています。最初の二つは相補的なペアになっており、どちらも1980年に開かれ、1981年に出版されています。第一のものは「ボエティウス、その生涯、思想、影響」と題されて、ボエティウス国際協会の第一回会長であるMargaret T. Gibsonにより、オックスフォードで開かれています(Basil Blackwell Press)。ここには6世紀から16世紀までを扱う18の研究が集められ、索引を含めて427頁の研究論文集が出来上がっています。二つ目の「ボエティウス研究国際学会」は、1980年10月5日-8日パヴィーアで開かれ、その研究論文集はLuca ObertelloとGiovanni Scanavino (Editrice Herder)によってローマで発刊されました。全部で28の研究は、2部に分かれています。20の報告(p. 15-283)と8つの発表(p. 287-375)です。全部で386頁ですが、索引は含まれていません。第3番目のシンポジウム、「ボエティウスあるいは知の連鎖——サンジェ=ポリニャック基金国際シンポジウム」もまた前の二つと同じように重要です。この進歩事務は1999年6月8日-12日、パリで開かれ、Alain Galonnierの編纂で論文集が出されました(Peeters Publishers, *Philosophes médiévaux* 44)。この中には36の研究が集められ、著者索引を含めて789頁の大著となっています。cf.: <http://chspam.vjf.cnrs.fr/Boece.htm> ; <http://www.peeters-leuven.be/boekoverz.asp?nr=7495>.

§ [3] しかしここ10数年で、ボエティウスに関する学際的な新しい研究が、アメリカの国際ボエティウス協会のメンバーから、ヨーロッパから、特にフランス・アキテーヌ地方、デュラス羊皮紙・彩色装飾保存美術館の研究委員会の16人のメンバーのなかからも、生まれています。そのようなわけで、第2回アキテーヌ・シンポジウムは前記の3つの素晴らしいシンポジウムを引き継いでいこうとしています。実際、すでに存在する科学的・哲学的研究(33の世代)から、それを引き継ぐ学際的で統合的な研究(50の世代)まで、すなわち数と比例の学から(「オクターヴの規制」の基礎的研究に特徴づけられるようなもの; cf. Boethii *De arithmetica* II : 2 ; I. Humphrey ; K. Barlow, etc.), 感覚認知による習得の学まで(「認知過程」の研究に特徴づけられるもの; cf. Boethii *De musica* I : 1 ; I. Reznikoff ; A. Beck ; J. Beck ; J. Cottraux, etc.)を統合することで、ボエティウス研究の年代的観点を広げることが必要なのです。

§ [4] よって第2回アキテーヌ・シンポジウムの主な目的は、一つにはボエティウスの生涯と作品に関する統合的な最近の研究を考慮に入れるということ、次に、ディアパーソンの完璧なハーモニーのうちに、新しい研究を発表しつつある世界中の専門家を集めるということです。プラトン主義者ボエティウスAnicius Manlius [Torquatus] Severinus Boethiusは、あらゆる面からみて科学哲学者でしたが、古代と中世をつなぐ絆であり、また中世と現代をつなぐ人物でもあります。このシンポジウムの論文集はLe Manuscrit-Université : <http://www.manuscrit-universite.com/universite/>, から出版される予定で、デュラス羊皮紙彩色装飾保存博物館が公式のパートナーです。

§ [5] アキテーヌ・シンポジウムの予告は、すでに我々の協力者達の間で、またボエティウス研究の専門家たちの中で、非常な熱心をもって受け止められました。2005年10月23日から羊皮紙・彩色装飾保存博物館はウェブサイトにて発表募集を載せ、発表希望者に必要な情報を提供しています。企画者側は自由で独創的な研究を優遇し、発表希望者にはそれぞれの関心と専門に応じた、多様な発表を期待しています。またこのサイトにはデュラスまでのTGVの時刻表や、近郊の宿泊についての情報も載せられています。・Explicit・(IH:ih)・

• Festum Ticino sancti Severini Boethii • die dominico decimo kalendas novembris • anno Domini B bis millesimo quinto •

(traduction japonaise : Aya Ono → ono_bun@nifty)

➤ お問い合わせは : Illo Humphrey → (00 33) 01 64 88 99 21 → illo.humphrey@free.fr まで <



デュラス羊皮紙・彩色装飾保存博物館





申込書 第2回アキテーヌ・シンポジウム－2006



デュラス羊皮紙・彩色装飾保存博物館は

- Rue des Eyzins • F - 47120 Duras • Tel. : (00 33) 05 53 20 75 55 •
- (<http://www.museeduparchemin.com/>) • (museeduparchemin@free.fr) •

デュラス市の全面的な協力により、

📖 第2回アキテーヌ・シンポジウム－2006 📖

➤ 8月3日(木) 4日(金) 5日(土) ◀

ボエティウス：

(ローマ, ca. 480 – †パヴィーア, ca. 524)

- 人物・哲学・科学・
- 作品とその影響

を開催します

➤ 研究発表募集 ◀

第2回アキテーヌ・シンポジウム－2006

は研究発表者の募集と登録申請の受付を行います。つきましては
下記のメール・アドレスまで発表の要旨と履歴書(1頁)を**Word**と**Pdf**の形で、
また上記の住所まで申し込み用紙⁽¹⁾をお送りください。：

museeduparchemin@free.fr と **illo.humphrey@free.fr**,

姓： _____

名： _____

職業： _____

所属機関： _____

住所： _____

郵便番号： _____ 国： _____

電話： _____ 携帯： _____

E - Mail : _____

- ⁽¹⁾ 参加費用 50 ユーロ : 第2回アキテーヌ・シンポジウム－2006年8月3日－5日 •

ここに _____ ユーロ分の銀行小切手(あるいは郵便小切手)を同封し、

Musée du Parchemin に宛てます。• 署名： _____

(traduction japonaise : Aya Ono → ono_bun@nifty)



➤ 問い合わせ先 : Illo Humphrey → (00 33) 01 64 88 99 21 → E-mail : illo.humphrey@free.fr ◀

